

プロジェクト社会展開TFにおける 検討状況について（中間報告）



2021年1月25日

プロジェクト社会展開TF

ヨコスカ×スマートモビリティ推進協議会(半年に1回)

【会長】 中村 文彦 横浜国立大学 教授 【役割】 スカモビの戦略・ビジョンに関する協議 等

【ポイント】 プロジェクト報告時には、実施主体や関係自治会長様などにも参画頂き、現場の声を聞く

随時、MaaS分野の外部有識者(例: JCoMaaSなど)もアドバイザーとして参画頂く

(新設)プロジェクト社会展開TF(随時)

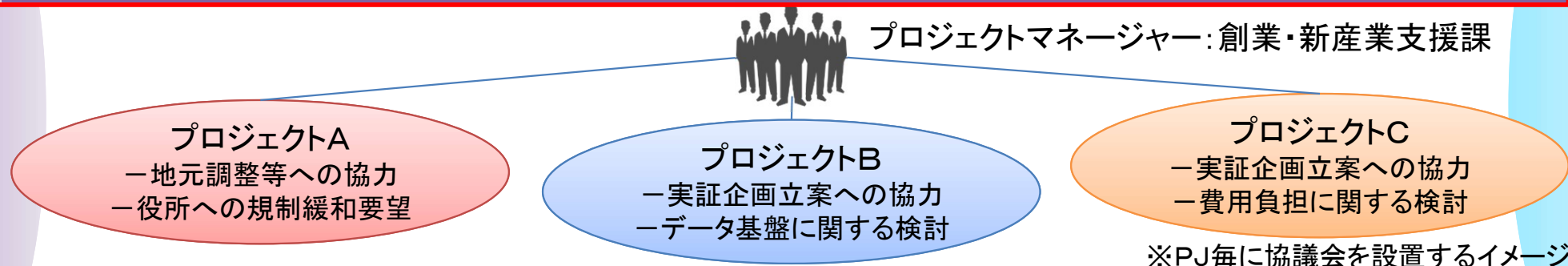
【主査】 越塚 登 東京大学大学院 情報学環 教授 【副主査】 梶田 佳孝 東海大学 土木工学科 教授

【役割】 スカモビの戦略・ビジョン案の検討(プロジェクトの企画・連携、地域との連携、イベントの企画など)

【ポイント】 宣言に対応したビジョンを具体化し、既存PJやチャレンジNW等との連携・支援方策を具体化

企業・
大学等

地域
住民



スカモビチャレンジ・ネットワーク(2カ月に1回)

【メンター】 有吉 亮 横浜国立大学 特任准教授

【役割】 (ニーズオリエンテッドな)新規実証プロジェクトの創出、企業等とのネットワーキング

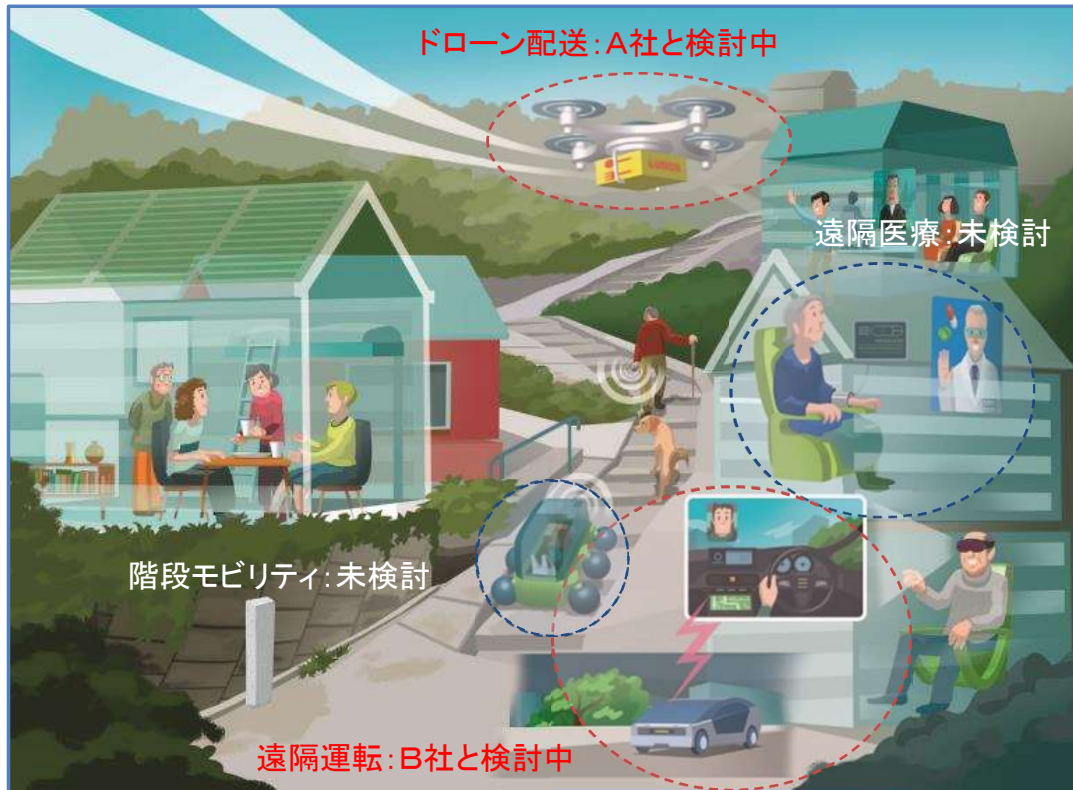
【活動】 AND ON 品川を拠点とした各種イベント(既存PJとのミートアップ、アイデアソン等)の企画・運営



(新設)横須賀アイデア発掘ツアー(年に1回程度)

【役割】 ベンチャー等の企業に実際に横須賀の課題等を体験してもらい、アイデア発掘+アイデアソンを実施

社会実装ビジョン検討



<進め方のイメージ>

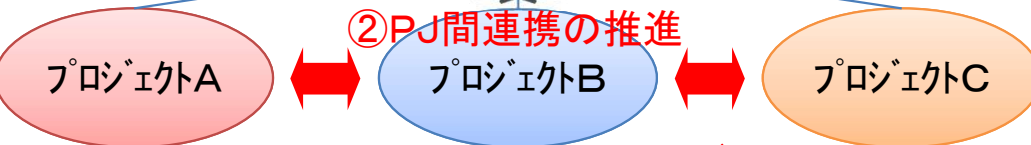
- まちづくりビジョンを要素技術にブレークダウン
- 要素技術ごとの検討の状況を整理
- 各技術の連携の在り方(データ連携基盤)検討や未検討領域の新規PJ創出につなげる

プロジェクト連携・支援

プロジェクト社会展開推進TF



PM: 創業・新産業支援課



スカモビチャレンジ・ネットワーク



ベンチャーキャピタル



企業



大学等



③新規PJ創出

①～③を有機的に連携し、実装を目指す

構成員等		※主査を除き五十音順
	所属・役職	氏名
主査	東京大学大学院 情報学環 教授 (内閣府 SIP ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術 サブPD) (国交省 MaaS関連データ検討会 座長)	越塚 登
副主査	東海大学工学部土木工学科 教授・学科長	梶田 佳孝
	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 特任准教授	有吉 亮
	モビリティジャーナリスト	楠田 悦子
	※随時プロジェクト関係者などが参画※	

オブザーバー:なし

<ポイント>

- スカモビ宣言に対応したまちづくりビジョンを具体化し、①データ連携基盤の在り方、②PJの連携・支援の在り方、③地域ニーズの発掘、④イベントの企画などを検討
- 各プロジェクトの機微な情報(事業者のノウハウ等)を扱うため、**議事は原則非公開**とする
- 機動性・効率性を重視し、**構成員を有識者に限定。議事に応じて参加者を柔軟に追加**する形態(プロジェクト主体や関係省庁、実証フィールドの自治会長様などを想定)
- 横須賀市創業・新産業支援課がプロジェクトマネージャー**として各PJの進捗管理などを行う

基本的考え方の整理について

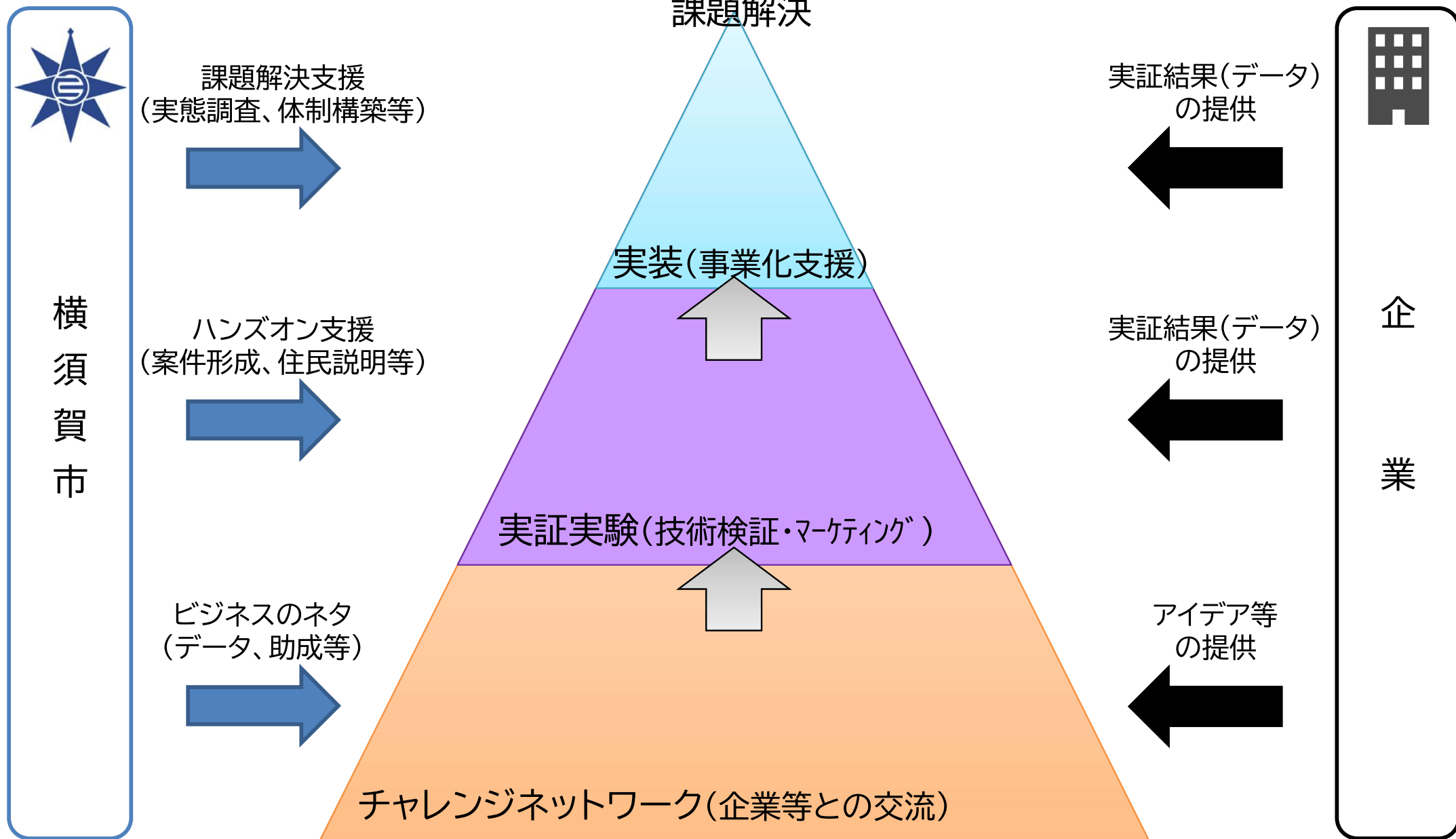
～第一回会合における構成員コメントより～

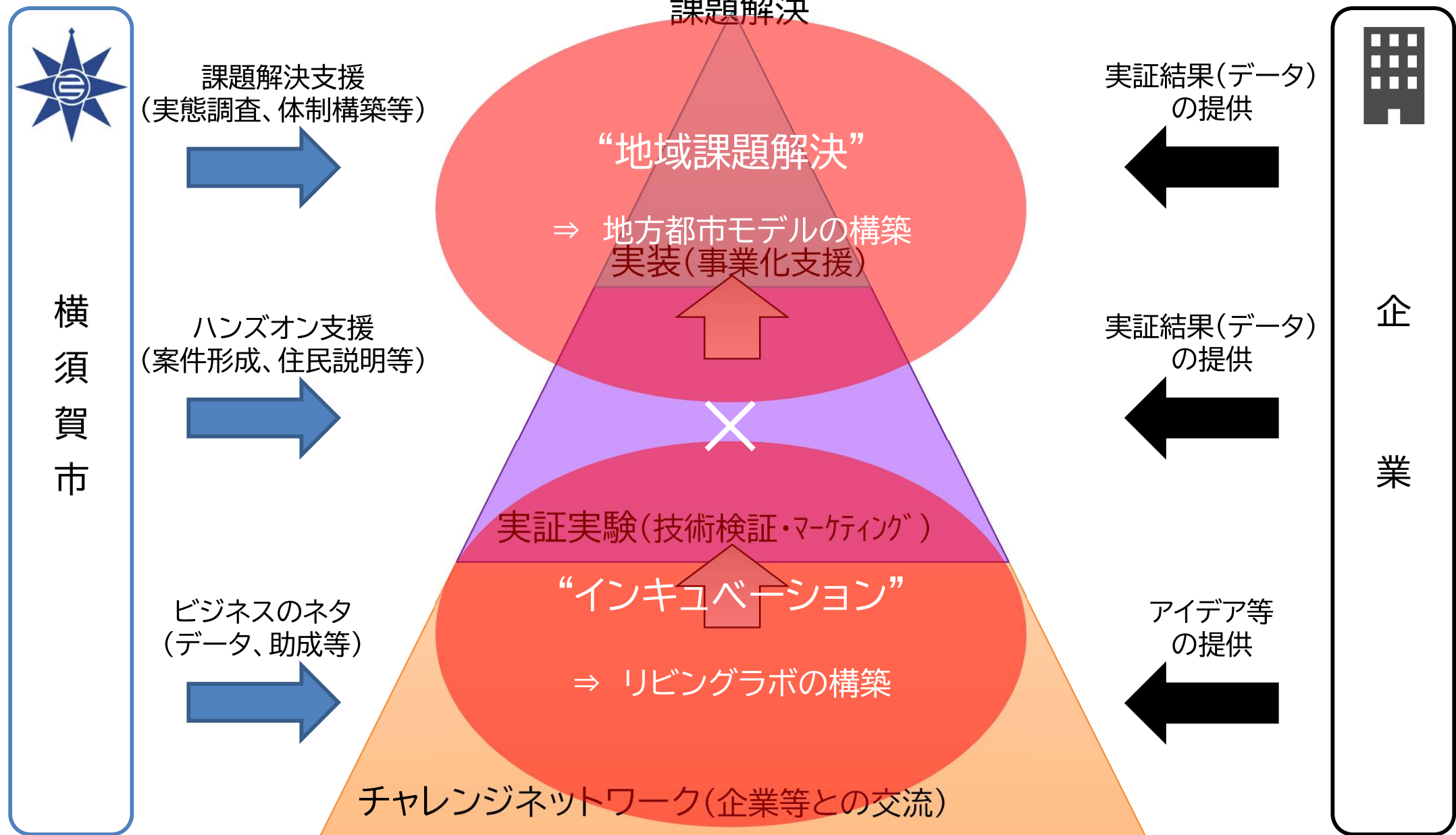
1. スカモビの強みについて

- 「創業・新産業支援課」(事業の創出・創業を支援)が実施していることが1つのポイント
補助金などの仕組みがない中で、横須賀で実証実験をやるインセンティブを整理すべき
- 他自治体と比べて担当者の動きや意思決定のスピードも非常に速くて付き合いやすい
外からは見えづらいがこういった点をしっかりとアピールすべき
- 実証実験を繰り返す営みを「リビングラボ」と言っているが、決して悪いものではない
スカモビについても実証実験を通じて得た知見をしっかりと蓄積していくことが重要
- 実証実験を行った中でビジネスモデルとして有用であると分かったものについては、社会実装に向けて力を入れるという方向で検討すべき

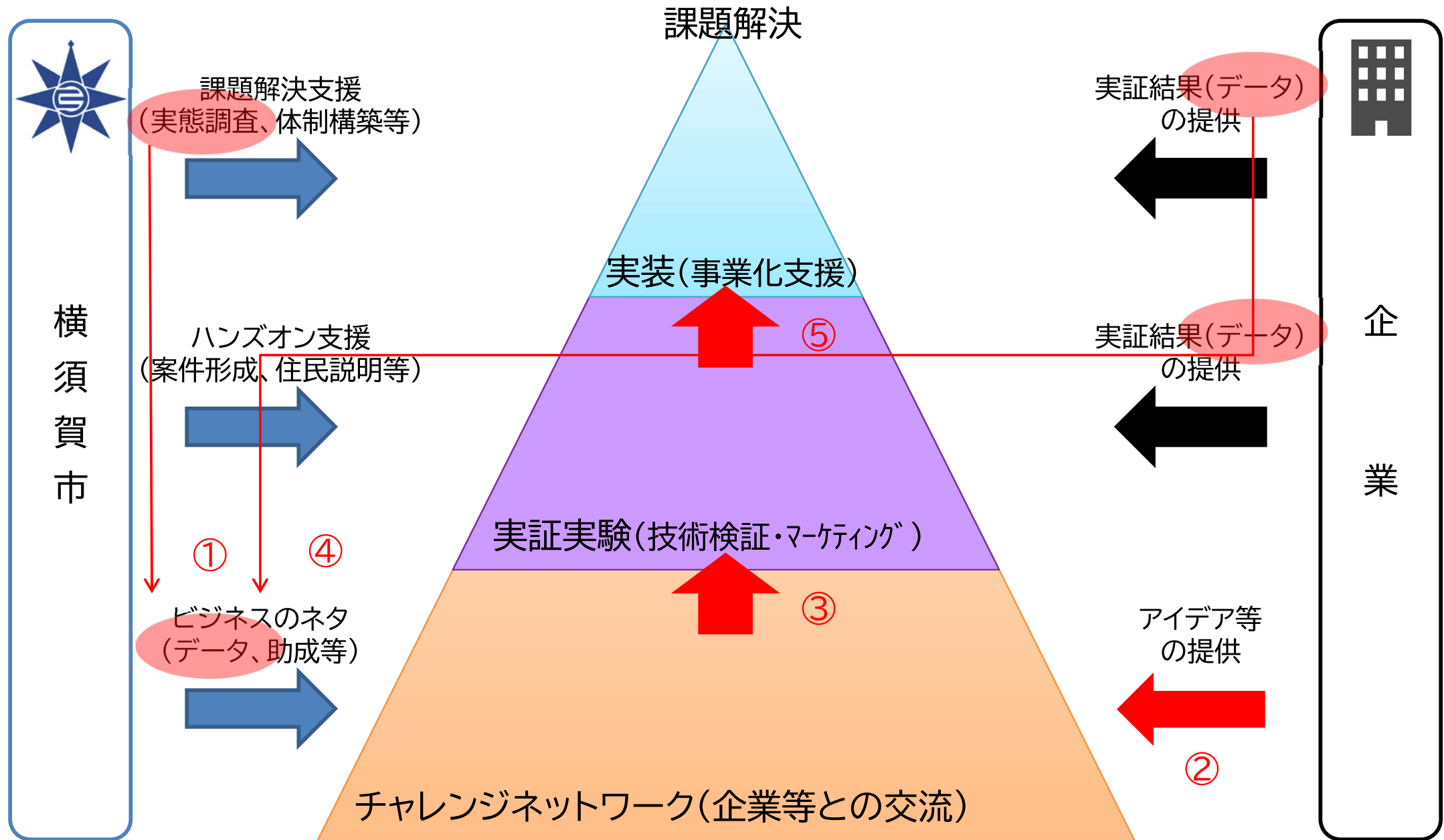
2. 社会実装に向けた動きについて

- 日本の人口の約5割は横須賀のような地方都市に住んでいるという認識のもと
そういった地方都市でビジネスとして成立するモデルの構築を目指すべき
- 地域課題を解決する際には、従来の大企業から中小に仕事を出すのではなく、その逆が必要ではないか
- 社会実装を更に進めていくとなると、より地域に応じたローカルなビジョンにしていく
必要があるのではないか

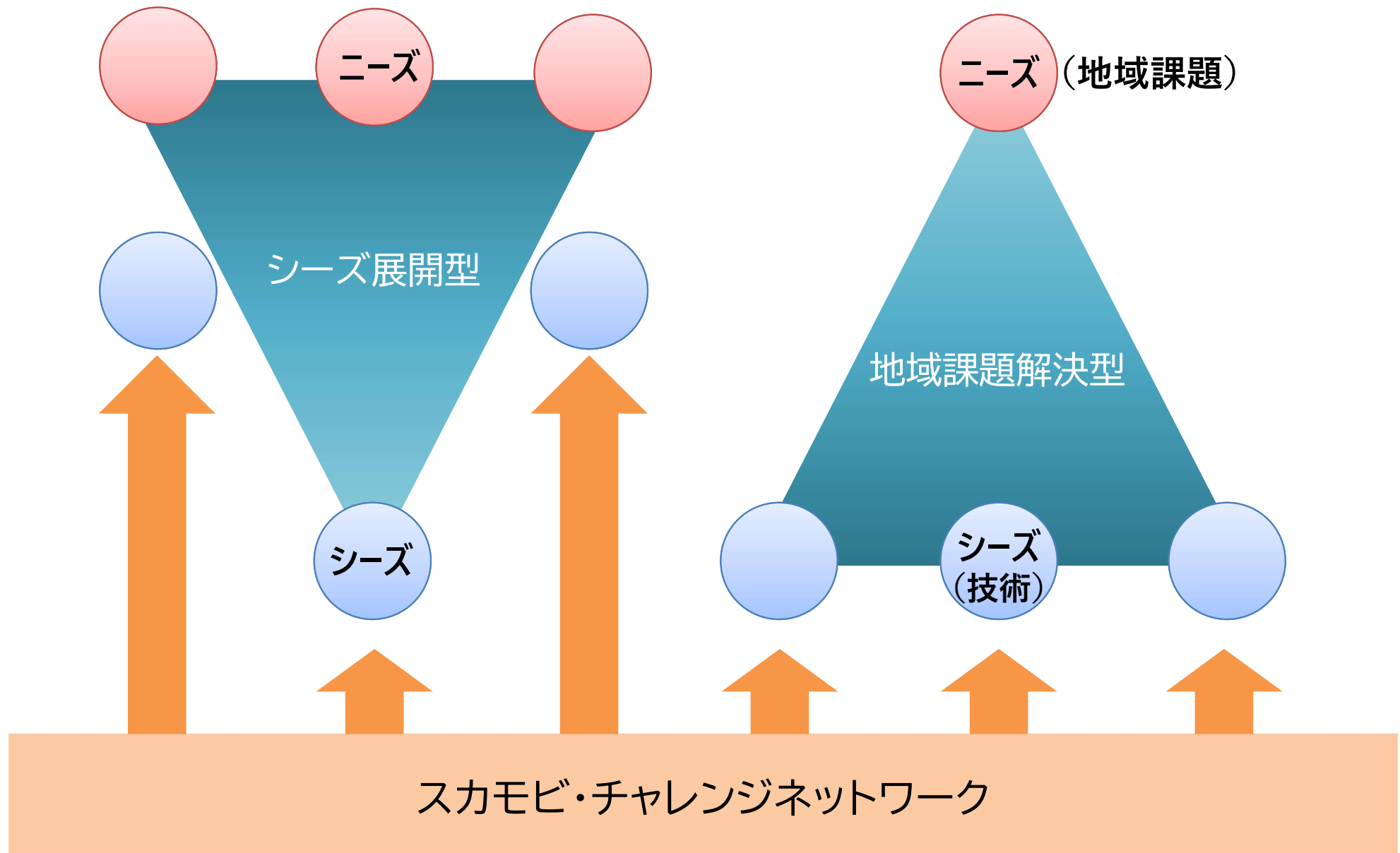




⇒ スカモビ = “インキュベーション×地域課題解決”の枠組み



⇒ 様々なデータを収集・蓄積し、社会実装に活かす“サイクル”が重要



⇒ 特に社会実装に注力するプロジェクトを「地域課題解決型」に指定

- 逸見地区で実施予定の「**AI運行バス**」(NTTドコモ、京急)プロジェクトを**地域課題解決型**に指定
- 実証PJと連携する形で「横国大と連携した移動実態調査」を実施
- 実証×調査によって“**地域に適応した実装モデル**”を具体化



- 前回の推進協議会において、中村会長、越塚主査、梶田主査らから「スカモビ活動への提言」を頂戴する

描く未来像

- ・課題山積の一般的な都市としての横須賀
- ・**コロナ禍を受けての都市像**
 - ・縮小しながらも進歩する都市
 - ・多様化を受けとめる豊かな都市生活の空間
 - ・都市活動(しごと、くらし)の多様化
 - ・移動方法(頻度、時刻、目的地、手段等)の多様化
 - ・見直すべき「交通」
 - ・心身を健康にするための移動
 - 徒歩や自転車の重視
 - ユニバーサルデザイン(みんなでかつ効率的に)の重視
 - ・公共交通の発想転換と地域での支援

取り組み課題についての提言

1. みんなの道路大变身

- ・まず市内1か所(どこか谷戸)→その後複数箇所比較へ
- ・歩行者・自転車天国
 - ・時間帯規制で自家用車と物流車両を排除
 - ・移動支援必要な人向けのなにかは用意(MaaS的工夫)
- ・道路に思い切りはでなペイントをする→楽しむ

2. ピーク依存しない都市内バス

- ・市内1路線どこかで
- ・ピーク時のないダイヤ設定
- ・座席数多いバス(着席保証(乗車上限人数管理も))
 - ・良い車両が用意できれば10人以下定員車両活用も
- ・MaaS的技術での需要誘導
 - ・ピーク需要を下げオフピーク需要を上げる工夫
 - ・勤務や学びでの在宅や時差移動
 - ・通勤や通学以外の需要の積極的掘りおこし
 - ・プライシング、他活動と連動したサブスクリプション

プロジェクト社会展開TFにおいて検討中

- コロナ禍を受けて交通利用者減、個配増の傾向は継続
- 横須賀市の状況を明らかにするため、市内の特定地域を対象とした「**横国大と連携した移動実態調査**」を実施予定
- 調査は実証PJ等とも連携して実施し、調査結果を反映する

コロナ禍の影響

交通手段	11月実績(前年比)
航空(国際)※1	約86%↓
航空(国内)※1	約25%↓
乗合バス※2	約22%↓
タクシー※2	約30%↓
大手民鉄	回答割合
10～20%↓※3	約23%
20～30%↓※3	約69%
30～50%↓※3	約8%

※1 便数 ※2 輸送人員 ※3 輸送人員の減少幅

個配

12月実績(前年比)

宅急便	約19%↑
うちネコポス	約97%↑

出展 国交省「新型コロナウイルス感染症に伴う関係業界への影響について」(令和2年11月30日時点まとめ)
<https://www.mlit.go.jp/common/001378064.pdf>

出展 ヤマトHD「2020年12月小口貨物取扱実績」
<https://www.yamato-hd.co.jp/investors/financials/monthlydata/index.html>

移動実態調査

【背景・目的】

コロナ禍の影響は地域差があり、横須賀市の個別状況を明らかにする必要がある



ポイント

昨年度の調査に対して

- コロナ禍前後における外出の頻度変化
 - コロナ禍前後における食料品等の買い物の変化(頻度やネットスーパーの利用など)
- などの調査項目を追加

- コロナ禍によって道路(歩道、車道)の在り方も時々刻々と変化
- 横浜国立大学 有吉先生等と連携し、車載センサによって連続的に歩行者等の位置・量のデータなどを収集・蓄積するPJを検討中
- 収集・蓄積したデータを用いることで「みち・まち」の在り方を検討

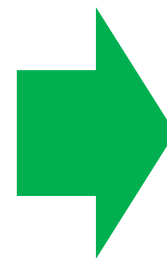
【得られるデータ】

- 歩行者／自転車の位置・量
- 路面状況等の道路資産 等



実施イメージ

※資料提供 モービルアイ・ジャパン



「みち・まち」の在り方検討例

- 既存データと重ね合わせ道路の交通安全性を多角的に評価(歩行者／自転車への配慮)
- 歩行者の量を時系列で分析することによるホットスポット分析等のリスク評価

1. スカモビ基本的考え方(案)の具体化

- ー 他自治体の事例調査やスカモビ宣言等を踏まえ内容を具体化
- ー “データを蓄積し、次に活かす”ための枠組みの検討
- ー インキュベーションのための“武器”の整備
(例:横須賀市内の地域実態の再整理、助成メニューの斡旋強化など)

2. コロナ禍を受けての都市像の具体化

- ー 移動実態調査などを踏まえたスカモビ宣言(ビジョン)改定等の検討

3. スカモビ支援プロジェクトのフォローアップ

- ー 既存プロジェクトとの関係性を整理し、出口戦略を整理(実装ビジョン化)